

インド市場を取り巻く国際環境

ポイント① 米利上げで新興国通貨下落

今年は、新興国の通貨が全般的に下落しています。インドルピーもトルコリラやアルゼンチンペソほどではないものの、昨年末より米ドルや円に対して12~13%程度下落しています。

新興国通貨の下落の背景には、米国の金融政策があります。図1は米ドルの全般的動向を示す実効為替レートを円やユーロなどの主要通貨に対して算出したものと、新興国通貨に対して算出したものを示しています。米国で量的金融緩和が終わりに近づいた2014年半ばから、米ドルは上昇しました。2017年にはやや下落しましたが、今年に入って米国でインフレ上昇懸念が強まり、金融市場では利上げ加速の思惑が強まったことから再び米ドルは上昇に転じました。特に新興国通貨に対する上昇が顕著です。裏を返せば、米国の利上げ過程で新興国通貨が下落していると言えます。

ポイント② 新興国株式は相対的に弱い動き

新興国通貨の下落は、株式市場にも波及しています。図2が示すように、先進国株式市場が全般的に堅調に推移している一方、新興国株は今年1月下旬をピークに下落基調です。米国で利上げが続く間は新興国から資金が流出して、新興国通貨、株価が下落しやすいでしょう。

ただし、米国のインフレ率はFRB(米連邦準備制度理事会)の目標の2%を大きく超えそうにはないため、来年半ばまでには利上げが止まり、新興国への投資が回復に向かうと見られます。

ポイント③ インドの経済条件は堅調

新興国通貨や株式市場の回復過程では、各国の経済条件の違いがクローズアップされるでしょう。インド経済は新興国の中でも高い7%程度の成長を維持しています。図3が示すように経常収支は赤字基調ですが、GDP(国内総生産)比では2011、12年頃より赤字幅は縮小しています。また、アルゼンチンやトルコなどと比べて小幅です。

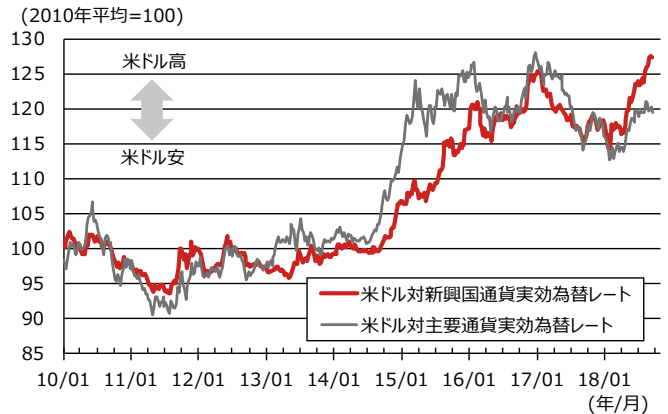
短期的には米金利上昇の影響を受けるものの、中長期的には先進国金利が低水準で推移すると見られる中、高成長が期待されるインドが有望な投資先であることには変わりはないでしょう。

重要 イベント

9月26日	米国：金融政策発表
9月28日	米国：個人所得、個人消費支出、個人消費支出デフレーター(8月)
10月5日	インド：金融政策発表

図1：米ドル実効為替レート

期間：2010年1月1日～2018年9月14日、週次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：先進国株と新興国株の動向

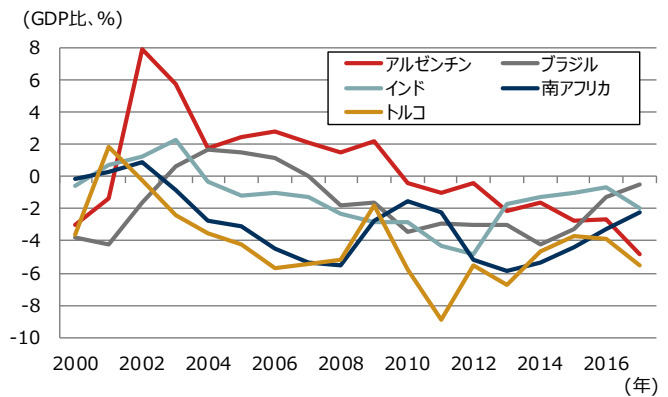
期間：2000年1月7日～2018年9月14日、週次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：アルゼンチン、ブラジル、インド、南ア、トルコの経常収支

期間：2000年～2017年、年次



(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。